

栗原みつはる議会報告

～「介護福祉の未来」を創る～ Vol,24

2期目での
提言実績

【ポストコロナでの財源の確保】(2021年3月議会)

新型コロナの影響での税収減により、大幅に歳入不足が見込まれる中で即効性のある財源確保策として企業版ふるさと納税がある。経営者は、企業の経営理念と合致するなどがあればお金を出すでしょう。

しっかりと意思を入れて、経営者の心を揺さぶる事業を企画し、心を揺さぶるようなプレゼンをしていくべきであると提言。

→農業ふれあいセンターにおいて人材派遣型実現

【内水被害の軽減】

(2022年6月議会)

近年、内水被害は市内各地で多く発生している。大規模対策は莫大な時間と費用が掛かるが、低コストで一時的に内水被害を軽減できる対策のひとつとして土のうがある。しかし土のうステーションは、市内中心部から南北地域に設置場所が偏っている。

道路冠水が想定され、浸水被害が想定される地域にはもっと計画的に土のうステーションを増設すべきと提言。

→南古谷市民センターなど増設決定にて実現

【デマンド型交通かわまるの利便性向上】(2023年3月議会)

現在「かわまる」を利用するには事前に登録申請が必要である。「かわまる」利用者の8割が70歳以上にも関わらず、70歳以上の登録者が高齢者全体に占める割合は約12%しかない。一方でマイナンバーカードの高齢者交付率は60%を超える勢いで増加している。今後は事前登録申請ではなく、まずは初回利用についてはマイナンバーカードを利用できるようにし、初回利用時に登録申請書を記入することで、初回利用までの煩わしさを改善すべきと提言。

【雨水ポンプ場等の非常用電源】(2019年9月議会)

市所管の雨水ポンプ場等31箇所のうち非常用電源が確保されているものは6箇所しかない。風水害時の停電で排水ポンプが停止した際には、可搬式ポンプで排水をするとのことであり、その能力には大きな差があり、甚大な被害の発生が想定される。

今後は、雨水ポンプ場への非常時の電源確保をしていくべきと提言。

→可搬式非常用電源確保で一部実現

【迅速な避難所開設】(2021年12月議会)

休日や夜間に地震が発生した場合、市民センター等へ避難所の鍵を取りに行かなければならない。さらに市民センター等の職員が来なければ避難所の鍵を受け取ることはできない。指定避難所に暗唱番号付きのキーBOXを設置するなどして、迅速な避難所開設ができるようにすべきと提言。

→小中学校指定避難所にキーBOX設置で実現

【災害時の保育園等の対応】(2022年3月議会)

保育園は台風や地震などの災害時でも、保護者が就労できる環境を提供する必要があり休業にはできない。

尊い命を無くしてからでは取り返しがつきません。

緊急時の一時預かり保育可能な代替施設を即日利用可能とすることをしっかりと盛り込んだ保育園等の臨時休園のガイドラインを早急に作成すべきと提言。

→現在臨時休園のガイドライン策定中で実現

【こども食堂の運営支援】(2022年9月議会)

市内小中学生の約5割がこども食堂を「使ってみたい・興味がある」との調査結果が出ている。しかしこども食堂運営団体はボランティアであり、食材調達など非常に苦勞されている。こども食堂を継続して運営していくためにも、市としての助成金等を検討していくべき、そして各こども食堂の開催日や利用方法、また寄附などの受付先、相談窓口などを積極的に発信すべきと提言。

→令和5年度予算にて補助金上程中。

【ワクチン接種の今後の課題】

(2021年9月議会)

新型コロナワクチン2回目接種率が41.3%の状況で3回目接種の報道があり、10月20日からはインフルエンザ予防接種が開始され混乱が想定される。

新型コロナワクチン3回目の接種実施や未接種者への接種が遅れるなどして、インフルエンザ予防接種との接種時期が重なった場合を想定して、しっかりと備えておくべきと提言。

→3回目以降の接種も混乱なく実施。

【新型コロナ第二波への備え】

(2020年6月議会)

4月7日に緊急事態宣言が発令され、多くの市民が不安の中、行動を自粛した。かかりつけ医などの一般医療機関で医師の感染リスクの低い唾液による検体採取方法を更に広げることや、オンライン診療を更に導入し、医師と患者のリスクを低減することで検体採取まで市民がスムーズに受けられる体制を作っていくべきと提言。

→唾液による検査体制の拡大で実現

【高齢者デジタル対応の現状】

(2021年6月議会)

ワクチン接種予約の混乱により、スマホが使えない、ホームページを見られないなどの高齢者のデジタル対応への遅れが浮き彫りになりました。デジタル化は著しく進歩しており、情報格差、デジタル格差はさらに広がっていきます。情報弱者である高齢者を取り残さないようにしていくことが必要であり、今後高齢者デジタル講習に活用するためにも、まずは高齢者のデジタル対応の現状について調査していくべきと提言。

→高齢者ニーズ調査にネット利用の質問項目追加で実現

【祭り囃子の保存】

(2022年12月議会)

現在市内には39の囃子連があるが、市及び県の無形文化財指定されているのは3団体のみであり、未指定の囃子連は運営に苦慮されている。

100年後に残っていたもので特に重要なものを市指定とするのか、100年後にも残したいから市指定として積極的にその保存をしていくのか。

100年後にも祭り囃子を残すのであれば、県及び市指定以外の未指定の祭り囃子についても指定団体と同様な補助金などの支援をすべきと提言。

【コロナ禍での今後の経営支援】

(2020年12月議会)

緊急事態宣言下で不要不急の外出は控えてと言われるが、不急ではあっても不要な業種、企業などはありません。先の見えないコロナ禍の中でも経営者は歯を食いしばって耐えている。会社や現場に足を運んで現場で経営相談を受けられ、一緒に会社を継続させる方策を考えてくれる体制を作っていくべきと提言。

多くのご要望もいただきました！

